|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 日本語表現２ | 教員名 | 段　正一郎 | 免許・資格との関係 |  |  |
|  |  |
|  |  |
| 授業形態 | 講義 | 担当形態 | 単独 |  |  |
| 科目番号 | JEX２ | 配当年次 | ２年次前期 | 卒業要件 |  | 必修 |
| 単位数 | ２単位 |  |  |  |  |  |
| 科目 |  |
| 各科目に含める必要事項 |  |
| 一般目標 | ・日本語への関心を高め、日本語の特色を理解する。【日本語への関心・理解】・さまざまな表現方法を理解し、自分の考えや心情を表現できる。【表現方法の修得】・自分の生き方や社会との関わりに関心を持ち、よりよい生き方を探求する。【生き方の探求】 |
| 到達目標 | (1)話題や題材を生かし、情報を分析しつつ、論理的思考ができる。　(2)相手の立場や自分とは異なる考えを尊重し、意義ある討論を行い、論拠の妥当性を判断できる。(3)論理の構成や描写の仕方などをさまざまに工夫して表現できる。(4)日本語におけるさまざまな表現法を習得し、相手意識をもって話したり書いたりできる。(5)読書の幅を広げ、読書に親しみ、自分の生き方を考えられる。(6)言語文化に対する関心を持ち、それらを尊重しつつより視野を広げる。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「１．クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。２．日本文化と外国の諸文化に対する広範な知識とその比較を通して得た、高い異文化理解・受容能力を身につけている。４．日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。 |
| 授業の概要 | 価値観の多様化する現代において、言語環境は大きく変容しているが、その中にあって、論理的に思考する力、豊かな発想のもととなる創造力、またそれを表現する力が必要不可欠となっている。本授業では、日本語で適切かつ効果的に表現する能力の育成をめざし、言語感覚を磨くとともに、プレゼンテーションやディスカッションを通して相互理解を深めることを目標とする。内容は、韻文の鑑賞、スピーチ、文章講座、日本語に関する研究発表等である。創作やプレゼンテーション、相互評価、自己評価（レポート）といった言語活動を繰り返す中で、日本語に対する興味・関心を高め、表現することの意義を考えさせたい。 |
| 授業計画 | 第１回：授業概要説明　表現を味わう①（目標(1)（５）(6)）　第２回：表現を味わう②（目標（１）(2)(4)(6)）第３回：語彙力（目標(4)(6)） 第４回：敬語表現（目標(3)(4)(6)） 第５回：文章表現① （目標(1)(3)(4)(5)(6)）第６回：文章表現②（目標(1)(3)(4)(5)(5)）第７回：文章表現③（目標(1)(3)(4)(5)(6)）第８回：文章表現④（目標(1)(3)(4)(5)(6)） 第９回：文章表現⑤ （目標(1)(3)(4)(5)(6)）第１０回：日本語に関する研究発表およびディスカッション①（目標(1)(4)(6)）　　　　第１１回：日本語に関する研究発表およびディスカッション②（目標(1)(4)(6)） 第１２回：日本語に関する研究発表およびディスカッション③（目標(1)(4)(6)）第１３回：日本語に関する研究発表およびディスカッション④ （目標(1)(4)(6)）第１４回：日本語に関する研究発表およびディスカッション⑤（目標(1)(4)(6)） 第１５回： 日本語の修辞法に関するまとめ　「表現」の意義について（目標(2)(4)(6)）定期試験：日本語表現に関する小論文 |
| 学生に対する評価 | 定期試験（40％）、課題・レポート（30％）、発表（30％）を総合して評価する。　なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。・コメントを記載して返却する。・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。・答案例を配布する。 |
| 時間外の学習について | 講義における創作課題については、必ず指定された日までに提出すること。また、ディベートや発表準備を周到に行うこと。事後学習として、単元ごとに課されるレポートを提出すること。 |
| 教材にかかわる情報 | 授業時に適宜プリントを配布する。 |
| 担当者からのメッセージ | 特になし |
| オフィスアワー | 授業前後の時間。その他必要に応じて行う。 |
| 備考 |  |